国宝「土偶」（縄文のビーナス）

国宝「土偶」（縄文のビーナス）　棚畑遺跡（第 500 号土坑出土）　縄文時代中期
昭和 61 年（1986 年）出土、平成 7 年（1995 年）国宝指定　高さ 27.0 ㎝

National Treasure “Dogu” (“Jomon no Venus”)[Clay figurine (The Venus of Jomon)]
Excavated from the no.500 pit of the Tanabatake site in 1986/ Middle Jomon
This was designated to a national treasure in 1995. H:27.0cm

国宝「土偶」（縄文のビーナス）と棚畑遺跡

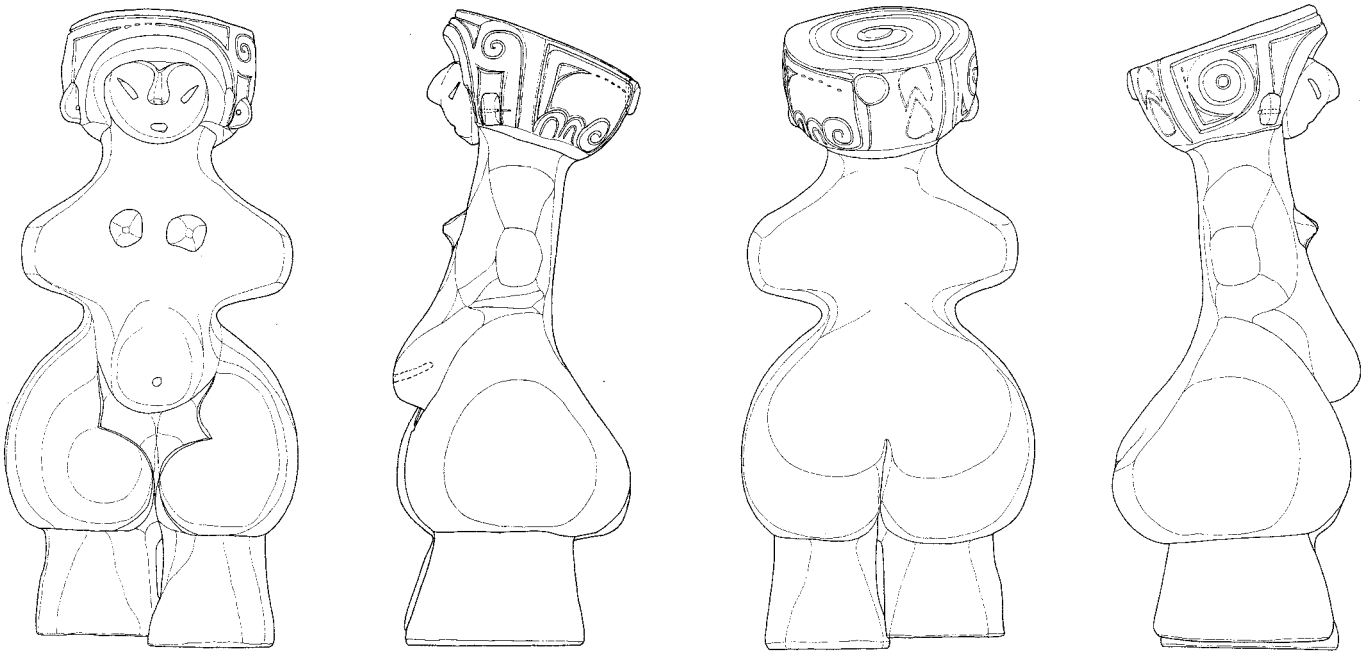
棚畑遺跡は、米沢埴原田の米沢工業団地の造成工事で、昭和 61 年（1986 年）に発掘された、市内でも最大規模の遺跡です。この遺跡からは、縄文時代の前期から江戸時代までの生活の跡が見つかっています。特に今から約 5000 年前～ 4000 年前といわれる、縄文時代中期と呼ばれる時代については、この土偶をはじめ、膨大な量の優れた資料が出土しました。発見された住居址はすべての時代をあわせると 150 軒以上、完全に復元された縄文土器は 600 点にもなります。

縄文時代の集落は、何軒かのイエがお祭りなどに使う広場を中心にして環状に作られていますが、この土偶もその広場のなかの土坑（どこう）と呼ばれる小さな穴のなかに横たわるように埋められていました。

全体像は下方に重心がある安定した立像形で、全高は 27 ㎝、重量は 2.14kg あります。

頭は頂部が平らに作られ、円形の渦巻き文が見られることから、帽子を被っている姿とも、髪型であるとも言われています。文様はこの頭部以外には見られません。

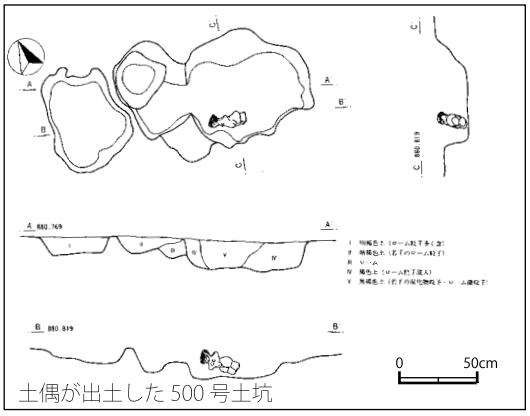
顔はハート形のお面を被ったような形をしています。切れ長のつり上がった目や、尖った鼻に針で刺したような小さな穴、小さなおちょぼ口などは、八ヶ岳山麓の縄文時代中期の土偶に共通した特徴です。また、耳にはイヤリングをつけたかと思われる小さな穴があけられています。



腕は左右に広げられて手などは省略されています。また、胸は小さくつまみ出されたようにつけられているだけですが、その下に続くお腹とお尻は大きく張り出しており、妊娠した女性の様子をよく表しています。

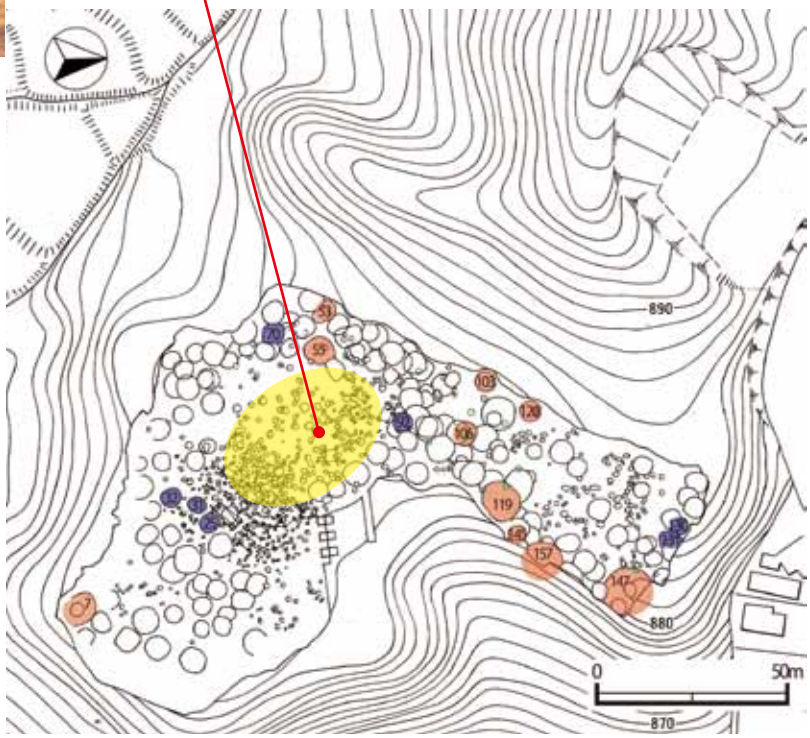
全体の作りは、主な骨格となる部分を組み立てて、それにいくつかの粘土塊を肉付けするように丁寧に作られています。表面はよく磨かれて光沢があります。また、粘土には雲母が混じっており、金色に輝いています。焼きは一部甘いところがあり、右足には表面がはがれ落ちていたところがありました。けれども、一般に見られる壊された土偶とは異なり、完全な形で埋められたものであることは明らかです。

この土偶は、八ヶ岳山麓の土偶の特徴と造形美を合わせ持つことや、当時の精神文化を考えるためにも貴重な学術資料であることから、平成 7 年に国宝に指定されました。



土偶が出土した 500 号土坑

土偶が出土した 500 号土坑は、棚畑遺跡の墓域のほぼ中央にあり、長径 80cm、短径 70cm ほどの楕円形をしている。土偶は、現地表面から 50cm ほどの深さから出土した。



棚畑遺跡の平面図
オレンジ色と青色は土偶が出土した住居
緑色の丸印はそれ以外の土偶の出土位置

Horizontal map of the Tanabatake site
Yellow-shaded area is where the burial pits located.
Orange and blue are the pit houses where dogus were found and green circles also show the place where other dogus were found.

国宝「土偶」（仮面の女神）

国宝「土偶」（仮面の女神）　中ッ原遺跡（第70号土坑）　縄文時代後期
平成12年（2000年）出土、平成26年（2014年）国宝指定　高さ34.0cm

National Treasure "Dogu"("Kamen no Megami")[Clay figurine (The Masked Goddess)]
Excavated from the no. 70 pit of the Nakappara site in 2000/ Late Jomon
This was designated to a national treasure in 2014. H:34.0cm

土偶が出土した第 70 号土坑の周囲に、死者の顔に逆さまにして被せた浅鉢形土器が出土した土坑が見つかっている。
中ッ原遺跡から出土したこれらの土器のうち 8 点も、土偶とともに縄文時代後期の葬送儀礼をよく示すものとして、国宝（附（つけたり））に指定された。

Burial pits were found around the pit where the "Dogu" was excavated, and the bowls possibly put on the face of the corpses were excavated from some of them. 8 bowls of them were also designated to a national treasure (accompanied with "Dogu"). Because they also indicate the funeral ceremony of the Late Jomon as well as the "Dogu" .

土坑出土の浅鉢形土器（附　国宝）中ッ原遺跡
Pottery (bowls) excavated from the burial pits of the Nakappara site

浅鉢形土器　（附　国宝）　中ッ原遺跡
（第 94 号土坑出土）縄文時代後期　径 28.6cm
Pottery (bowl)
(National treasure accompanied with "Dogu")
No. 94 pit of the Nakappara site/ Late Jomon/ D: 28.6cm

浅鉢形土器　（附　国宝）　中ッ原遺跡
（第 163 号土坑出土）縄文時代後期　径 29.0cm
Pottery (bowl)
(National treasure accompanied with "Dogu")
No. 163 pit of the Nakappara site/ Late Jomon/ D: 29.0cm

浅鉢形土器　（附　国宝）　中ッ原遺跡
（第 59 号土坑出土）縄文時代後期　径 31.0cm
Pottery (bowl)
(National treasure accompanied with "Dogu")
No. 59 pit of the Nakappara site/ Late Jomon/ D: 31.0cm

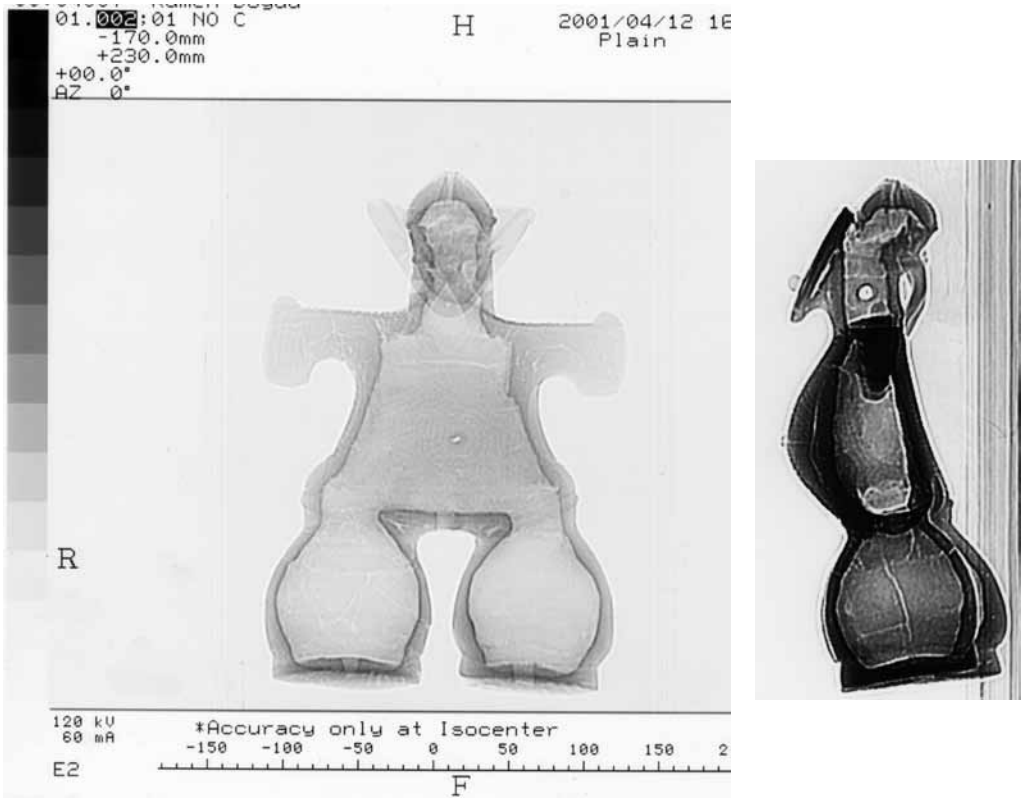
国宝「土偶」（仮面の女神）はどのように作られたのか？

仮面の女神は、内部が空洞で作られています。このような土偶を中空土偶と呼んでいます。中空土偶は、土器と同じように粘土をひもや細い棒のように伸ばして、それらを輪にして重ねてくっつけあわせて作ります。

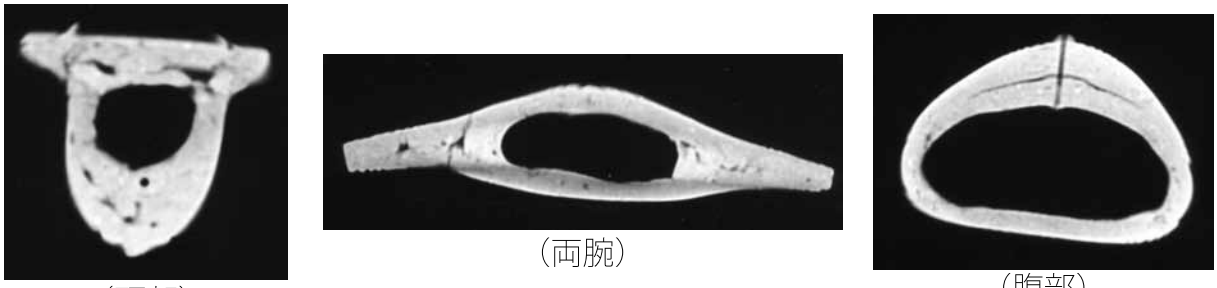
仮面の女神をレントゲンで撮影したところ、改めて空洞であることがわかります。内部が空洞であるため、焼いて完成させるときに破裂しないよう、穴があけられています。頭頂部、首、腹部、股間、足の裏に孔があり、全部で７つあります。

このうち、首と股間と足の裏の孔は直径が 5mm 程度であるのに対し、頭頂部と腹部の孔は 1mm 程度です。頭頂部と腹部の孔は、頭頂部や腹部に描かれた文様と一体化していて、直径も小さいので空気抜きだけではない意味があるかもしれません。レントゲン画像でも、そうした孔の位置や直径の違いがわかります。

さらに、腹部は粘土を付け足してふくらんだ形になるように仕上げていることも、レントゲンの撮影でわかりました。



Computed radiography of the national treasure “Dogu” (”Kamen no Megami”)



（頭部）　（両腕）　（腹部）

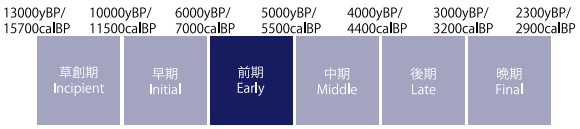
CT Scan of the “Dogu”: head (L), breast and arms (C), belly (R)

出土時の写真（昭和 8 年 [1933 年]）
When it was excavated in 1933.

「蛇体把手付深鉢」尖石遺跡　縄文時代中期
（昭和 8 年 [1933 年] 出土）　高さ 24.0cm
Pottery with snake-shaped decoration
Togariishi site (excavated in 1933)
/the middle part of the Middle Jomon
/ H:24.0cm

環状把手付筒形土器　尖石遺跡　縄文時代中期
（昭和 8 年 [1933 年] 出土）高さ 17.0cm
Cylindrical pottery with handle-like small rings
Togariishi site (excavated in 1933)
/the middle part of the Middle Jomon/ H:17.0cm

「蛇体把手付深鉢」尖石遺跡　縄文時代中期
（昭和 29 年 [1954 年] 出土）高さ 39.0cm
Pottery with snake-shaped decoration
Togariishi site (excavated in 1954)
/the middle part of the Middle Jomon/ H:39.0cm



深鉢形土器（右は注口を模したもの）
神ノ木遺跡　縄文時代前期
高さ（左）54.0cm（右）30.5cm
Pottery (deep pots)/ (R) With the imitation of spout
Kaminoki site/ Early Jomon
/ H: (L) 54.0cm, (R) 30.5cm

貝殻状装飾付深鉢形土器
丸山遺跡　縄文時代前期　高さ 22.0cm
Pottery (deep pot)
with shell-shaped decorations
Maruyama site/ Early Jomon
/H: 22.0cm

波状口縁深鉢形土器
下ノ原遺跡　縄文時代前期　高さ 36.0cm
Pottery (deep pot)
Shimonohara site/ Early Jomon/ H: 36.0cm

深鉢形土器
高風呂遺跡　縄文時代前期　高さ 25.0cm
Pottery (deep pot) with basket like expression
Takaburo site/ Early Jomon/ H: 25.0cm

縄文時代の食べ物

食べ物が遺跡から出土することはまずありません。何しろ、縄文時代の人たちが食べてしまって残らないからです。また、縄文時代の人の便も残ることはほとんどありません。便も土中でバクテリアによって分解されてしまうからです。

では、どのようにして食べ物について調べることができるのでしょうか。

貝塚や洞窟遺跡を発掘すると、貝がらや動物の骨が出土します。水辺の遺跡では、腐らずに残った食べることのできる植物が見つかることもあります。また、炭になってしまった食べ物が見つかることがあります。

一方、遺跡から出土した人骨を調べることで、それまでに主にどんなものを食べてきたのかがわかります（安定同位体分析と呼びます）。また、土器や石器に付着したものを分析することで、海産物や木の実だった可能性を調べることができます。

（①～⑤同じ縮尺です）

炭化した木の実

①クリ、②クルミ（殻）、③コナラ、④イヌガヤ、⑤トチ
（①～④：下ノ原遺跡出土、⑤：梨ノ木遺跡出土）
Charred nuts: ①*Castanea crenata*, ②*Jaglans*, ③*Quercus serrata*, ④*Cephalotaxus harringtonia*, ⑤*Aesculus turbinata*
(①to④: Shimonohara site, ⑤Nashinoki site)

炭化した木の実が出土することがある。クルミの殻はともかく、本来食べるべきものがこのように出土するというのは、火災に遭った竪穴住居であるとか、供物としてあったものがやはり火災に遭ったとか、火を使う儀礼行為の最中に火にくべられたといった理由が考えられる。

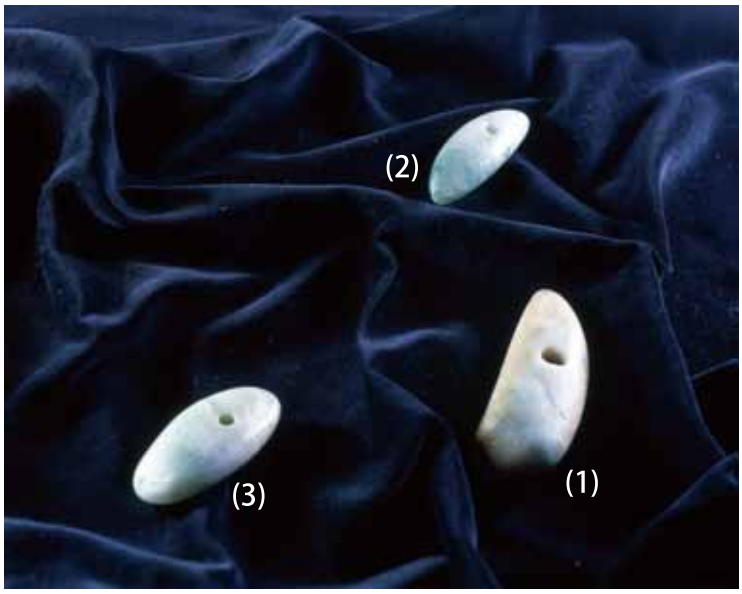
一方、一般に「クッキー状炭化物」などと呼ばれる加工食品の場合、加工するという調理の手間がかかっている分、なぜ残っているのか気になるところである。調理に失敗してしまったものだろうか。それともやはり供物として火にくべられたのか。味も気になるところだ。

判ノ木山西遺跡出土土器の内面に付着していた炭化物（ノビルのようなもの？）
Charred material stuck on the internal surface of a pottery excavated from the Hannokiyama Nishi site (possibly a kind of *Allium*)

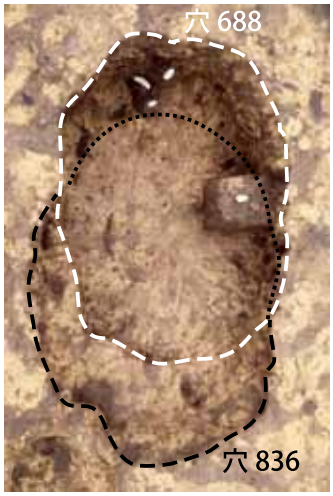
炭化した加工食品
Processed food

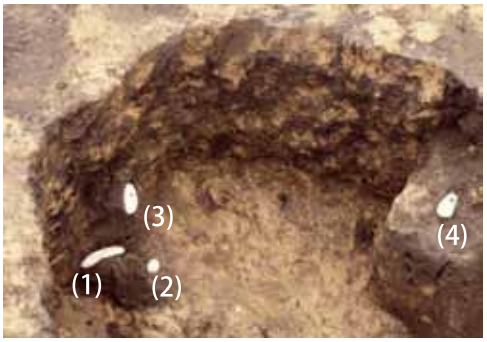
（水尻遺跡 [Mizujiri site]）

（高風呂遺跡 [Takaburo site]）



ヒスイ製垂飾　立石遺跡
（1 ～ 3：穴 688、4：穴 836）
長さ（1）9.6cm（4）4.5cm
Pendant heads made of jade
Pit 688 (L) and pit 836 (above) of the Tateishi site/ Max L: 9.6cm(1), min L: 4.5cm (4)



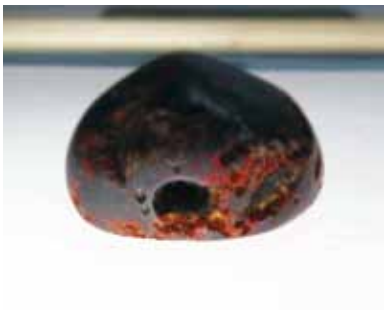


立石遺跡のヒスイ製垂飾の出土状況
穴 688 を白線、穴 836 を黒線で示している。穴688があったところに、あとから穴 836 が一部重なるように掘られた。1 ～ 3 のヒスイは穴 688 に入れられ、4 は穴 836 に入れられたようだ。

Excavation of the pit 688 and 836 of the Tateishi site
White line shows the plan of the pit 688 and the black line shows that of the pit 836. No.1 ,2 and 3 were associated with the pit 688, and no.4 was in the pit 836.

ヒスイ製垂飾　長峯遺跡（左）聖石遺跡（右）
縄文時代中期　長さ（左）6.0cm（右）6.7cm
貫通している孔の近くに、途中で諦めたのか、空きかけの孔がある。

Pendant heads made of jade
Nagamine site (L), Hijiriishi site/ Middle Jomon
L: (L) 6.0cm, (R) 6.7cm
We can see the unfinished holes. The worker may have given up on the way by some reason.



コハク製垂飾　棚畑遺跡（左）、福沢中原遺跡（右）
縄文時代中期 長さ（左）5.0cm（右）2.6cm

Pendant heads made of amber
Tanabatake site (L), Fukuzawa Nakahara site (R)
Middle Jomon/ L: (L) 5.0cm, (R) 2.6cm